

夏休みについて

子どもたちにとって楽しい夏休みですが、思わぬ事故やトラブルなどに巻き込まれないよう、以下のことに注意して過ごしてほしいと思います。毎日の健康観察と併せて、ご家庭でも遊びに行く際の約束の確認や、交通安全についての確認を今一度お願いします。

また、1学期の頑張りの疲れがたまっていることも考えられます。心も体もリフレッシュできるように、工夫して過ごしていただければと思います。

【まほうのかいわ】 ～子ども理解のためのヒント～

さっぽろっ子「学び」のススメ

子どもは、どの子もよさや可能性をもっています。大人は子どもを他者と比較するのではなく、その子自身の成長を認めていくことが大切です。学校で、家庭で、子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージを伝え、子どもの成長を促していきましょう。

学校も、家庭も、**まほうのかいわ**で習慣づくり

ま 学んだことを一緒に振り返りましょう。

ほう 方法を一緒に考えましょう。

の 伸びを認め、ほめましょう。

かい 改善に向けて、生活を一緒に振り返りましょう。

わ わからないこと、できないことに、挑戦しましょう。

SAPPORO 札幌市教育委員会

さっぽろっ子「学び」のススメは、子どもと家庭、子どもと学校、学校と家庭をつなぐとともに、子どもの権利を大切にします。

まほうのかいわを合言葉に「学習習慣」「運動習慣」「生活習慣」づくり！

学校 **連携** 家庭

子どもが自分で決めることを促すためには？
「～について、目指したいことは何？」
「～を頑張ったら、どんな自分になれると思う？」
「自分で決めることが大切。自分で決めるまで待てるよ。」
「～しなさい」メッセージより、「背中を押す」メッセージを！

子どもの伸びを認めるためには？
「漢字をこんなに書けるようになっていて、感心したよ。」
「毎日、縄跳びを頑張っている姿が見られて、うれしいな。」
「お手伝いしてくれて、ありがとう。」
「YOU」メッセージより、「I」メッセージを！
※「I」メッセージ＝「私」を主語にしたメッセージ

子どもの継続した取組を支えるためには？
「学校でどんな勉強してきたの？一緒に振り返ってみようか。」
「休みの日は、一緒にストレッチやウォーキングをしてみようか。」
「早起きできるようになる方法を一緒に考えてみようか。」
「～続けなさい」メッセージより、「一緒に」メッセージを！

コロナ禍で子どもの「心と体」、「学び」を守るためには？
「ちょっとイライラしているかな？一緒にストレス発散しようか。」
「家でできる運動を一緒に考えて、続けてみようか。」
「思ったとおりいかないこともあるよね。またやってみよう。」
「できない」メッセージより、「安心できる」メッセージを！

大切 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。

な 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。

5 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。

つ 生活を自らコントロールする力を育みます。

の 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。

ま 学んだことを一緒に振り返りましょう。

ほう 方法を一緒に考えましょう。

の 伸びを認め、ほめましょう。

かい 改善に向けて、生活を一緒に振り返りましょう。

わ わからないこと、できないことに挑戦できるように励ましましょう。

夏休みの生活の舞台はご家庭です。保護者の皆さんもお子さんとじっくり向き合い、その子のよさをもう一度見つめて、伝えてあげてください。また、休みが連続する期間は、家事などを覚えるよい機会でもあります。家族の一員としての役割を、お子さんがしっかり果たすことができるようになるなど、学習以外の成長の機会としてとらえていただくのもよいと思います。そして、お子さんと一緒に、長い休みだからこそできることを是非体験してほしいと思います。

丘珠っ子「よいこのルール」



- 一、朝早くにお友達のおうちのピンポンをならさない（午前中は学習をします）
- 一、お友達のおうちにおじゃมาすときは、あいさつをします
- 一、ジュースやおかしをおねだりしません
- 一、お昼ご飯は、自分の家で食べましょう（勝手にごちそうになりません）
- 一、お金をもって遊びに行ったり、お店にはおつかい以外で子ども同士で出入りしたりしません
- 一、エアガンなど危険なおもちゃで遊ばない
- 一、午後5時30分には自分の家に入りましょう

事故のない夏休みを

1. 交通事故に気を付けましょう

- 交通ルールを守るよう、ご家庭でも毎日声掛けを。

- 道路への飛び出しをしない。
- 信号機のあるところを横断する。
- 自転車やシェイボードなどの乗り方、乗る場所に気を付ける。



特に自転車は、自分も加害者になりえることをご家庭でもお話しください。

■交通事故の実態

学年別に事故による負傷者数を見ると、3年生が一番多いそうです。自転車での行動範囲が広がることが要因と考えられています。

曜日別では火曜日と木曜日、時間帯は3時から4時に増える傾向があるようです。

自転車に乗りケガをさせ、加害者になる可能性もあることを保護者の方も忘れずにいてください。事故にあっても、あわせても悲しい結果しかないことを子どもたちに今一度教えてください。

■大人が手本に

子どもの前で、親や大人がルールを破ると子どもも真似します。まずは大人が気を付けるようにしましょう。

2. 児童の安全確保に向けて

- 保護者として、行き先の確認をしっかりと。

- ・外出時には、行き先・帰宅予定時刻・誰と行くか等を必ず確認し、17時30分までに帰宅させてください。
- ・不審者に声を掛けられたり、誘われたりしたら、**まず、すぐに警察に連絡してください。**

■いかのおすし

最終的に自分を守るのは自分です。

「いかのおすし」を忘れないでください。

「いかない・のらない・大声を出す・すぐ逃げる・知らせる」をご家庭でも確認してください。



3. 水の事故に気を付けましょう

- 子どもだけで水辺へ行かせない。

- ・キャンプなどで水辺へ行くことがあると思いますが、大人が必ず付くようにしましょう。（ひざまでの水位があると溺れると言われていています。）また、ダムへの放水に気が付かずに、水位が増して流されたり、岸に戻れなくなったりすることがあります。



4. 子どもの危険な遊びやトラブルに気を付けましょう

- ・携帯電話やスマートフォンによるトラブルを防ぐため、フィルタリングサービスなどの利用や家庭でのルールづくりを。保護者が責任を負えないのなら、持たせない勇気も必要です。
- ・火遊び防止のため、ライターなどの管理をお願いします。また、子どもたちだけで、花火をさせないでください。必ず、大人の管理の下、行ってください。
- ・危険遊具（エアガン・BB弾など）を使った遊びや人の迷惑になるようなことをしていないか、ご家庭で話し合ってみましょう。

